

ログイン画面



ユーザーID (メールアドレス)

パスワード

自動的にログイン (2週間有効)

パスワードを忘れた場合は[こちら](#)

edenはクラウド型eラーニングサービスです。
詳しくは[eラーニングシステム eden](#)の
サイトをご覧ください。

【Q1】

90歳女性。生来健康。既往歴特になし。

今まで検診の受診は不規則であった。平成X年度〇〇市の肺癌検診で、直径約3cmの異常陰影を指摘され、精密検査の結果、左肺上葉扁平上皮癌と診断された。平成X年10月1日、A病院で左肺上葉切除術を施行された。術前、術中の評価により、転移は特に認められなかった。

術後、10月3日より、著明な呼吸苦が出現、胸部単純写真、胸部CT写真で肺炎を認め、抗生剤等を用いた治療を行ったが、次第に症状が悪化し、10月10日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょう。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>術後肺炎</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約1週間</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
	II	(エ) (ウ)の原因				
	手術	1 無 <input checked="" type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	主要所見				
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>		
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>			
	<p>手段及び状況</p>					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	術後肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1週間
		(イ) (ア)の原因	原発性左肺上葉扁平上皮癌		不詳
		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
(エ) (ウ)の原因					
II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
手術	1 無 2 有	①	部位及び主要所見 左肺上葉切除術を施行。左肺上葉に扁平上皮癌があったが、転移なし。	手術年月日 昭和 X年10月1日	
解剖	① 無 2 有		主要所見		
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死</p>				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	市 区 町 村	
	手段及び状況				

【解説】

本文からは、死因は左肺上葉切除術後の術後肺炎と推察されます。

直接の死因は術後性肺炎ですが、その原因となった傷病名「原発性左肺上葉扁平上皮癌」をⅠ欄(イ)に記載します。悪性新生物は原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。また、Ⅰ欄、Ⅱ欄の傷病名と関係がある手術を行っていますので、手術欄には手術を行った疾病と主要所見「転移なし」を記入します。

【Q2】

65歳男性。50歳時より近医で高血圧の治療歴あり。家庭血圧はやや高く150/90 mmHg 程度であった。

平成X年2月10日早朝、朝食もとらずに近所へ散歩に出かけた。なかなか帰宅しないため、家人が探したところ、家の玄関前で倒れているのを発見され、救急車で市内B病院に搬送された。搬送時、頭部CT検査で、脳幹出血を認めた。その後、ICUへ入院、人工呼吸器を装着するも、翌2月11日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因 高血圧による脳幹出血</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>1日</p>	
	I	(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
	II	<p>直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>				
	手術	<p>① 有 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p>	<p>平成 年 月 日</p> <p>昭和</p>	
解剖	<p>① 無 2有</p>	<p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>		
	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>手段及び状況</p>				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>脳幹出血</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>1日</p>	<p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約15年</p>	
	I	(イ) (ア)の原因					高血圧
		(ウ) (イ)の原因					
		(エ) (ウ)の原因					
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>					
	手術	<p>② 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p>	<p>平成 年 月 日</p> <p>昭和</p>		
解剖	<p>① 無 2有</p>	<p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死</p> <p>不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 }</p> <p>6窒息 7中毒 8その他</p> <p>その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>						
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>			
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>					
	<p>手段及び状況</p>						

【解説】

本文からは、死因は高血圧による脳幹出血と推察されます。

直接の死因は脳幹出血で、その原因となった傷病名が「高血圧」です。傷病名は簡潔に記入し、文章での記入ではなく、I 欄に因果関係がわかるように（ア）に脳幹出血、（イ）に高血圧を記入します。また、「脳出血」ではなく、部位がわかるものは「脳幹出血」のように部位を記入します。

【Q3】

80歳男性。60歳時より近医で2型糖尿病の治療歴(インスリン使用)あり。HbA1cは9%程度と血糖コントロールは不良であった。

平成X年4月10日頃より感冒様症状があり、4月11日に近医受診、胸部X線写真で右下葉に肺炎像を認め、市内のC病院へ入院となった。入院後クレブシエラ肺炎と診断され、抗生剤等の治療を開始した。症状はなかなか改善せず、5月10日ごろより、膿胸の所見を認め、抗生剤の変更、ドレナージ等も行った。5月15日午前10時頃より突然ショック状態となり、同日午後0時15分死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名稱				
	I	(ア) 直接死因	敗血症性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	2時間15分
		(イ) (ア)の原因	膿胸		5日
		(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎		1か月
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
手術	<input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	主要所見			
<p>(15)</p> <p>死因の種類</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 病死及び自然死 外因死 { 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死				
	<p>(16)</p> <p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
傷害が発生したところの種類		1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		市 区 都 町村	
手段及び状況					

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	敗血症性ショック	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約半日
		(イ) (ア)の原因	膿胸		5日
		(ウ) (イ)の原因	クレブシエラ肺炎		1か月
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	2型糖尿病	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください(例:1年3か月、5時間20分)	20年
手術	<input checked="" type="radio"/> 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="radio"/> 有 2有	主要所見			
(15)	死因の種類	<input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死 外因死 { 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	市 区 町 村	都 府 県
		手段及び状況			

【解説】

本文からは、死因はクレブシエラ肺炎から膿胸、敗血症性ショックになったものと推察されます。

最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番に記入します。「糖尿病」は直接死因には関係していませんが、I 欄の傷病等の経過に影響があると思われるので II 欄に記入します。また、発病（発症）又は受傷から死亡までの期間については、年、月、日等の単位で記入します。ただし、1日未満の場合は、時間、分の単位で記入します。発症日付を記入しないようにしてください。

【Q4】

60歳女性。生来健康。既往歴特になし。

平成X年5月10日頃より感冒様症状があり、5月15日に近医受診、胸部X線写真で右上葉に異常陰影を認め、市内D病院へ入院となった。精密検査の結果、肺小細胞癌と診断され、化学療法を開始した。外来通院で数クール of 化学療法を行い、一旦改善傾向を認めたものの、平成X+1年(翌年)2月頃より、陰影の増大及び肺内転移、脳転移を認め、呼吸状態が悪化したため、再び入院となった。次第に呼吸状態が悪化し、5月13日に死亡した。

また、同日病理解剖を行い、右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍をはじめ、肺内多発病巣を認めた。頭部解剖は行わなかった。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>呼吸不全</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>約3か月</p>	<p>約3か月</p>		
	I	(イ) (ア) の原因				<p>原発性右上葉肺小細胞癌</p>	<p>1年</p>
		(ウ) (イ) の原因					
		(エ) (ウ) の原因					
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>					
	手術	<p>① 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>			
	解剖	<p>1無 ②</p>	<p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>						
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>			
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>					
	<p>手段及び状況</p>						

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>1年</p>	
	I	(ア) 直接死因			原発性右上葉肺小細胞癌
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
II	(エ) (ウ)の原因				
手術	<p>部位及び主要所見</p> <p>① 2有</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
解剖	<p>主要所見</p> <p>① 1無</p> <p>右上葉肺門部に径約6cmの腫瘍があり、その他肺内に多発病変が認められる。</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>① 1 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>				
	<p>手段及び状況</p>				

【解説】

本文からは、死因は原発性右上葉肺小細胞癌と推察されます。

疾病の終末期の状態としての心不全、呼吸不全の記入を控えます。したがって、今回の場合「原発性右上葉肺小細胞癌」をⅠ欄(ア)に記入します。

解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、Ⅰ欄、Ⅱ欄の傷病名等に関連のある解剖の主要所見(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

【Q5】

72歳男性。生来健康。既往歴特になし。

今まで、肺癌検診をほとんど受診したことがなかった。平成X年6月、E市の肺癌検診で肺異常陰影を指摘され、平成X年9月、F病院を受診した。精密検査の結果、左肺下葉に径8cmの巨大異常陰影を認め、気管支鏡検査の結果、肺扁平上皮癌と診断されるとともに、左副腎に転移巣を思われる径5cmの腫瘍を認めた。

入院後化学療法を開始したが、平成X+1年12月10日8時、突然、吐血、下血があり、ショック状態となり同9時に死亡した。

解剖の結果、左肺下葉に径10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤したことによる出血であったことが判明した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」等をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>出血性ショック</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	1時間	
	I	(イ) (ア) の原因			副腎腫瘍	不詳
		(ウ) (イ) の原因			肺扁平上皮癌	不詳
		(エ) (ウ) の原因				
	II	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="checkbox"/> 有 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<input type="checkbox"/> 有 1無 <input checked="" type="checkbox"/>	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()	傷害が発生したところ 市 区 都 町村	都道府県 市 区 都 町村	
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>					

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称				
		I	(ア) 直接死因	出血性ショック	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	1時間
			(イ) (ア) の原因	転移性副腎腫瘍		不詳
			(ウ) (イ) の原因	原発性左下葉肺扁平上皮癌		不詳
	(エ) (ウ) の原因					
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	1無 ②	主要所見 左肺下葉に径約10cm、左副腎に径約6cmの腫瘍を認め、副腎腫瘍が胃への直接浸潤していた。			
(15)	死因の種類	① 病死及び自然死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	
		傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()		市区町村	
		手段及び状況				

【解説】

本文からは、死因は原発性左肺下葉扁平上皮癌が副腎転移を起こし、胃への直接浸潤から出血、出血性ショックをきたし死亡したと推察されます。

直接の死亡となった傷病名を(ア)欄に、(ア)欄の原因となる傷病名があれば(イ)欄に、(イ)欄の原因となる傷病名等があれば(ウ)欄に記入します。悪性新生物は、原発、転移の別、病理組織型、部位をわかる範囲で記入します。したがって、I欄(ウ)は、「原発性左肺下葉扁平上皮癌」を記入します。

解剖を実施した場合は、解剖欄2を○で囲み、I欄、II欄の傷病名等に関連のある解剖の主要所見(病変部位、性状、広がり等)を記入します。

【Q6】

80歳女性。もともと頸椎症が存在したが、76歳時に転倒して中心性頸髄損傷をきたし、不全麻痺の状態であった。

8月7日、午前9時10分頃に自宅室内で転倒し、それまで何とか自己摂取していた食事がとれなくなった。転倒当日の近医での頭部CT検査では、出血はなかった。

4日後に意識レベルが低下し、当院に緊急搬送。低Na血症と誤嚥性肺炎を認め入院した。入院後の頸髄MRIで脊髄損傷の増悪があり、誤嚥性肺炎は抗生剤投与で軽快したが、経口摂取は改善せず、他の栄養手段を希望されなかったため、入院後3か月で永眠された。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	1日 数か月	
		I	(ア) 直接死因			老衰
			(イ) (ア)の原因			
			(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		廃用症候群		
	手術	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和		
	解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	主要所見			
(15)	死因の種類	<input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村	
		傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()			
		手段及び状況				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かなくてください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	約3か月	
	I	(ア) 直接死因		摂食機能障害	約3か月
		(イ) (ア)の原因		頸髄損傷	
		(ウ) (イ)の原因			
	II	(エ) (ウ)の原因			
	手術	<p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>			
(15)	死因の種類	<p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2 交通事故 ③ 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 }</p> <p>その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 }</p> <p>12 不詳の死</p>			
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生した日時</p> <p>平成 昭和 X 年 8 月 7 日 午前 午後 9 時 10 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>① 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()</p>	<p>都道府県</p> <p>区</p> <p>市町村</p> <p>XX 〇△ 〇</p>	
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	<p>手段及び状況</p> <p>自宅室内で転倒したという。</p>			

【適切な記載2】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>摂食機能障害</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>約3か月</p>	
	I	(ア) 直接死因				
		(イ) (ア)の原因				
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>		<p>頸髄損傷</p>	<p>約3か月</p>	
手術	<p>①無 2有</p>	<p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>			
解剖	<p>①無 2有</p>	<p>主要所見</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>		<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>		<p>手段及び状況</p>			

【解説】 老衰は高齢者の死因として挙げやすい病名である。複数の疾患を併せ持つ高齢者では、死因を特定できないことも多い。また在宅で特に誘因もなく亡くなった際には、「老衰」としか記載できない場合もある。しかし、病院に一定期間入院し、死因が特定できるにも関わらず、老衰という診断を付けるのは一考を要する。地域によっては「老衰」という診断は天寿を全うできたということで、家族から喜ばれるので意図的につけることもあるという。

死因統計の観点からは「老衰」の診断名には高齢者で他の死因が特定できない場合にのみ用いる。

転倒の関与については主治医の判断によるが、転倒が死亡に直接関与したものでないと判断した場合は、「Ⅱ 直接には死因に関与しないがⅠ欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等」に頸髄損傷を記載することもある。

不慮の転倒の場合は死因の種類は「3.転倒・転落」を選択し、外因死の追加事項を記載する。

【Q7】

74歳女性。X年7月に熱中症で他院に入院時した際に血小板減少(6.1万)を指摘され、9月に血液内科のある総合病院を紹介受診し、骨髄異形成症候群と診断された。ご本人と相談の上、10月から入院して化学療法が開始されたが、汎血球減少が著明で本人の苦痛も強いため1クールで中止した。10月下旬に転倒し、前額部に挫創がみられた。意識障害や特記すべき神経学的所見なし。11月に入り発熱が反復し、11月10日から言葉がでにくいとの訴えあり、頭部CTで左前頭頭頂部に硬膜下血腫。四肢麻痺なし。脳外科にコンサルテーションしたが、緊急手術の適応はないと判断された。その後炎症反応の悪化、播種性血管内凝固の状態となり、血圧低下、意識レベルが低下し11月14日に死亡した。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>急性硬膜下血腫</p> <p>骨髄異形成症候群</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	4日		
	I	(ア) 直接死因			<p>手術</p> <p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和</p>	
		(イ) (ア) の原因					4か月
		(ウ) (イ) の原因					
	(エ) (ウ) の原因						
	II	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>					
	解剖	<p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>					
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>						
(16)	外因死の追加事項	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p>			
	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>				
	<p>手段及び状況</p>						

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>3日</p> <p>14日</p> <p>4か月</p> <p>4日</p>	<p>疾病の種類 1 急性病 2 慢性病 3 原因不明 4 不明</p>
	(ア) 直接死因	播種性血管内凝固			
	(イ) (ア)の原因	敗血症			
	(ウ) (イ)の原因	骨髄異型性症候群			
	(エ) (ウ)の原因				
	<p>直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>	急性硬膜下血腫			
手術	<p>部位及び主要所見</p> <p>○ 2有</p>	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日		
解剖	<p>主要所見</p> <p>○ 2有</p>				
(15)	<p>死因の種類</p> <p>○ 1有及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 </p> <p>12不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
	<p>傷害が発生したところの種別</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>手段及び状況</p>			

【解説】 終末期に複数の病態が錯綜することはしばしばみられる。本例では確かに硬膜下血腫はみられるもののその程度は軽く、意識障害の原因や直接死因とは考えにくい。むしろ汎血球減少の結果ひき起こされた、敗血症、播種性血管内凝固により微小血栓がおり、あわせて敗血症性ショックに至った可能性が高いと考えられることから、硬膜下血腫は、I 欄の傷病経過に影響を与えたものと評価した。

【Q8】

90歳男性。高度の認知症(病型不詳)で施設入所中。
食欲不振、傾眠が出現し、X年11月に入院した。経口摂取を試みるが誤嚥性肺炎を発症し、絶食にて中心静脈栄養を受けていた。入院後も食べようとする意欲なく、何とか口腔内に食事を入れても十分嚥下できなかった。家族と相談し、中心静脈ラインの再留置、胃瘻や経鼻経管栄養は行わないことになり、入院後1か月で永眠された。

この場合、死亡診断書の「死亡の原因」「死因の種類」をどのように記載したらよいでしょうか。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>(ア) 直接死因</p> <p>るいそう</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	数か月	
	I	(イ) (ア)の原因			認知症	不詳
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
	II	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有	主要所見				
(15)	<p>死因の種類</p> <p><input checked="" type="radio"/> 病死及び自然死</p> <p>外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	傷害が発生したところ 市 区 都 町村	都道府県 市 区 都 町村	
	<p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>手段及び状況</p>					

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	<p>数か月</p> <p>数年</p>
	<p>(ア) 直接死因</p> <p>るいそう</p>	<p>(イ) (ア)の原因</p> <p>摂食障害</p>		
	<p>(ウ) (イ)の原因</p>	<p>(エ) (ウ)の原因</p>		
	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>			
<p>手術</p> <p><input checked="" type="radio"/>無 <input type="radio"/>有</p>	<p>部位及び主要所見</p>		<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和 年 月 日</p>	<p>経緯</p> <p>死亡</p> <p>原因</p> <p>は</p> <p>と</p>
<p>解剖</p> <p><input checked="" type="radio"/>無 <input type="radio"/>有</p>	<p>主要所見</p>			
<p>(15)</p> <p>死因の種類</p>	<p><input checked="" type="radio"/>病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>			<p>1欄に名</p> <p>を</p>
<p>(16)</p> <p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>	<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>都道府県</p> <p>市区町村</p>	
<p>手段及び状況</p>				<p>「1」</p> <p>を</p> <p>施</p>

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称		<p>摂食機能障害</p> <p>認知症</p>	<p>発病(発症)又は受傷から死亡までの期間</p> <p>◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)</p>	約1か月			
	I	(ア) 直接死因			<p>手術</p> <p>①無 2有</p> <p>部位及び主要所見</p>	<p>手術年月日</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>昭和</p>	不詳	
		(イ) (ア)の原因					<p>解剖</p> <p>①無 2有</p> <p>主要所見</p>	
		(ウ) (イ)の原因						
	(エ) (ウ)の原因	<p>直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等</p>						
	II							
	<p>(15)</p> <p>死因の種類</p>	<p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死</p>						
<p>(16)</p> <p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>		<p>傷害が発生したとき</p> <p>平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>都道府県</p>					
	<p>傷害が発生したところの種類</p> <p>1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p>	<p>市 区</p> <p>都 町村</p>						
手段及び状況								

【解説】 このようなタイプの摂食障害は高齢者の終末期にしばしば遭遇するが、これまで摂食障害は年齢に関係なく、F50精神障害と分類されることが多かった。平成28年12月14日に開催された第6回死因選択検討ワーキンググループでの検討で、死亡診断書に「摂食障害」と記載されている場合、死亡時年齢が50歳未満の事例は「F50.9摂食障害、詳細不明」に分類する。死亡時年齢が50歳以上で、死亡診断書に「精神及び行動の障害」であることが類推される記載がない場合は「R63.8食物及び水分摂取に関するその他の症状及び徴候」に分類する。また、「F50.9摂食障害、詳細不明」とともに食物摂取の障害を引き起こす病態が記載された場合は、その病態を原死因として選択する。という改訂案が示された。今後より病態に即した分類になるものと思われる。

【Q9】

84歳 女性。X年12月11日 午前6時10分頃、新聞を取りに行った際、転倒し胸部を強打する。痛みが強く、動けないでいるところを家人に発見され、救急搬送される。

初診時所見：多発肋骨骨折、両側血胸、脾損傷による出血性ショック(血圧64/44 mmHg)で、胸腔ドレナージ、輸液・輸血療法、インターベンショナルラジオロジーによる止血にて循環動態の安定化を図る。

既往歴：サルコイドーシス(プレドニゾロン 17.5mg処方)、慢性腎臓病、腹部大動脈瘤、大動脈弁狭窄。

ICU管理となるが、循環動態が安定せず、12月16日心タンポナーデ合併、ドレナージ等の処置を行うも、大動脈弁狭窄による循環異常の管理が困難となり、12月19日、死亡した。

【適切でない記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名稱				
	I	(ア) 直接死因	心タンポナーデ	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
		(イ) (ア)の原因	左血胸		9日
		(ウ) (イ)の原因	左多発肋骨骨折		9日
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	大動脈弁狭窄症	◆年、月、日等の単位で書いてくださいただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約2年
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>①病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p> <p>傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分</p> <p>傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他 ()</p> <p>手段及び状況</p> <p>都道府県 市区町村</p>				

【適切な記載】

<p>(14)</p> <p>死亡の原因</p> <p>◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください</p> <p>◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください</p> <p>◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください</p> <p>ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください</p>	施設の名称				
	I	(ア) 直接死因	心タンポナーデ	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	3日
		(イ) (ア)の原因	左血胸		9日
		(ウ) (イ)の原因	左多発肋骨骨折		9日
		(エ) (ウ)の原因			
	II	直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	大動脈弁狭窄症 脾損傷	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約2年 9日
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	<p>死因の種類</p> <p>1 病死及び自然死</p> <p>外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 ③ 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 </p> <p>12 不詳の死</p>				
(16)	<p>外因死の追加事項</p> <p>◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください</p>		<p>傷害が発生したと</p> <p>平成 昭和 X 年 12 月 11 日 午前 午後 6 時 10 分</p>	<p>傷害が発生したところ</p> <p>XX 〇△ ④ 区 町村</p>	<p>都道 ⑤</p>
手段及び状況		<p>新聞を取りに行った際に転倒し、動けないでいるところを家人に発見されたという。</p>			

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別		妊娠週数
		グラム	1 単胎	2 多胎 (子中第 子)	満 週
		妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日		前回までの妊娠の結果
		1 無 2 有	3 不詳	平成 年 月 日 昭和	出生児 人胎 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
(18)	その他特に付言すべきことから 外傷後の全身管理で大動脈弁狭窄症の存在により循環管理に難渋し、死亡したもの。				

← 女
付
定
て
た
て

【解説】

多発肋骨骨折より出血性ショックとなり、集中治療管理を行うも既往歴の複合的要素、特に大動脈弁狭窄症の存在により循環管理に難渋し、死亡したものと解釈されます。

I 欄には「損傷の性質」をルールどおり記載していますが、その原因は外因であるため、「死因の種類」を疾病とすると矛盾が生じます。

転倒する原因に既往歴が関与しているわけではないので外因の「3転倒・転倒」を選択するのが適切です。

循環管理に難渋した要因として、脾損傷も考えられる場合は、II 欄にも併せて記載することもあります。

【Q10】

40歳 女性。 X年9月20日、路上で倒れている所を発見され、救急要請された。救急隊到着時心肺停止状態であり、心肺蘇生をしつつ、病院搬送となった。

初診時所見：二次救命処置で心拍再開となり、循環が安定する。搬送後の頭部CT検査にてくも膜下出血を認め、意識障害・心停止の原因と判断された。

ICU管理となるも、9月24日 12:12に脳死とされうる状態となり、家人より臓器提供の申し出があった。

9月25日 18:33 第1回脳死判定により脳死と判断された。

9月26日 9:12 第2回脳死判定により脳死と判断された。

9月27日 5:33-8:34 臓器摘出が行われた。

【適切でない記載】

死亡したとき 平成X年9月25日 午後6時33分

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称	(ア) 直接死因 心肺停止	発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	5日
		I	(イ) (ア)の原因 くも膜下出血		5日
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
II 直接には死因に關涉しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等					
(15)	手術 ① 無 2 有	部位及び主要所見	手術年月日 平成 年 月 日 昭和		
	解剖 ① 無 2 有	主要所見			
(16)	死因の種類 ③ 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 都道府県 市区町村		
	傷害が発生したところの種別 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()	手段及び状況			

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	単胎・多胎の別		妊娠週数
		グラム	1 単胎	2 多胎 (子中第 子)	満 週
		妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日		前回までの妊娠の結果
		1 無 2 有	3 不詳	平成 年 月 日 昭和	出生児 人胎 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
(18)	その他特に付言すべきことから 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。				

← 女付定て
上て

【適切な記載】

死亡したとき 平成X年9月26日 午前9時12分

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称		発病（発症）又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	6日	
		(ア) 直接死因	くも膜下出血			
		(イ) (ア) の原因				
		(ウ) (イ) の原因				
(15)	死因の種類 ③ 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死	手術	① 無 2 有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
		解剖	① 無 2 有	主要所見		
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県	
		傷害が発生したところの種別	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他()	市 区 町村	都 府 県	
		手段及び状況				

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数 満 週	← 女 科 定 て た て
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状 1 無 2 有	母の生年月日 平成 年 月 日 昭和	3 不詳	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)	
(18)	その他特に付言すべきことから 路上にて心肺停止状態で発見される。蘇生後、脳死状態となり、臓器提供がなされた。				

【解説】

くも膜下出血により心肺停止、心肺蘇生に成功するも4日後に「脳死とされうる状態」となり、臓器提供に至った症例です。

「臓器の移植に関する法律」の規定に基づき脳死判定を行った場合、死亡した時刻は第2回目の脳死判定終了時刻を記入するのが適切です。